

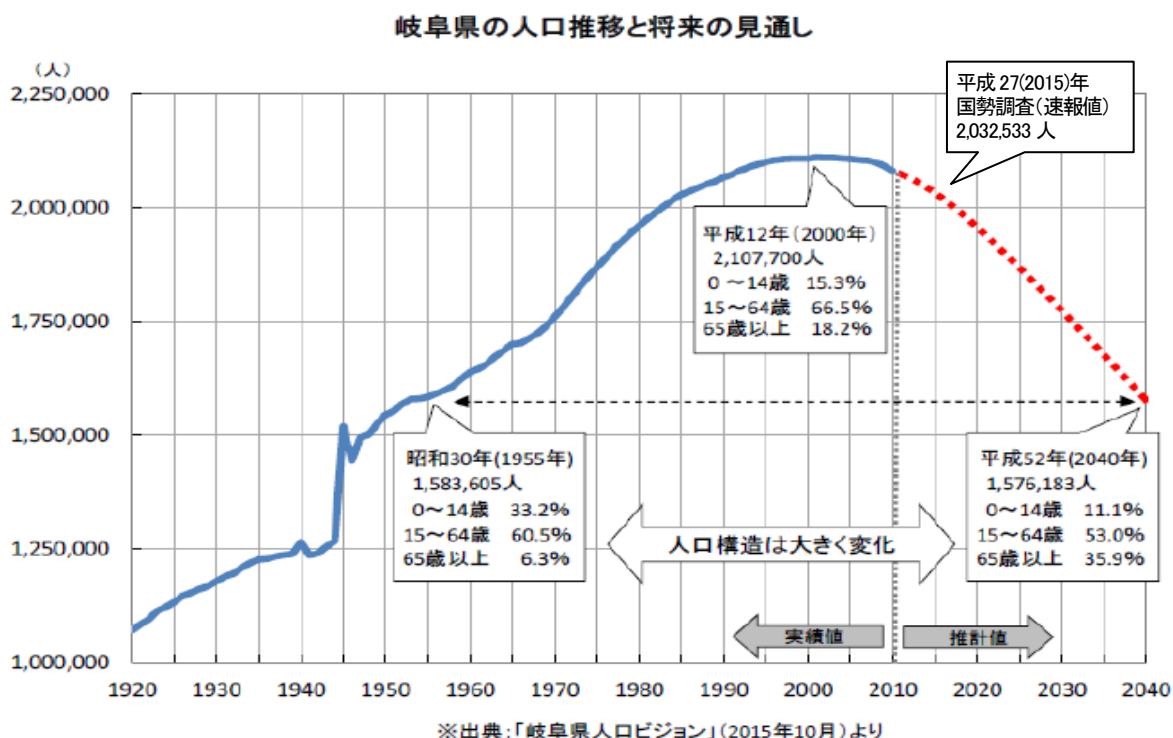
II 県営都市公園を取り巻く環境

1. 本県の人口推移

本県人口は、平成12（2000）年の約211万人をピークに今後も減少すると推計されています。

このような人口減少問題に立ち向かうため、昨年度、『清流の国ぎふ』創生総合戦略を策定し、これに基づき地域の将来を支える人を岐阜に留めるとともに、岐阜に呼び込むため、移住定住の促進、企業誘致や国内外からの観光誘客等の施策を展開しているところです。

なお、本県への移住者は年々増加しており、平成27年度に市町村の支援施策等を利用して移住された方は、過去5年間で最高の1,129人となっています。

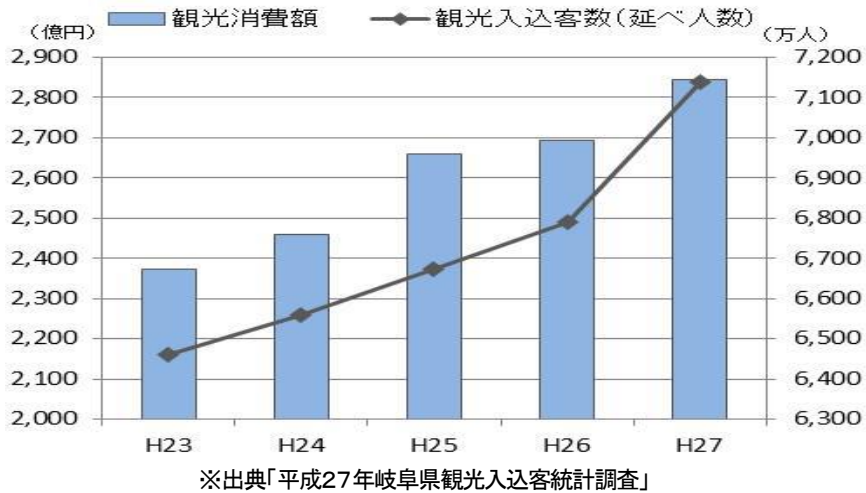


2. 本県の観光客の状況

本県への観光入込客数は近年増加しており、平成27年には7,139万5千人（延べ人数、対前年比5.1%増）となっています。宿泊客数（実人数）は628万9千人となり、前年に比べ12.8%増加しています。また、これに伴う観光消費額は、2,844億円となっています。

また、本県ではかねてより「飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクト」を推進しています。国においてもインバウンド戦略の一つとして、広域観光周遊ルートを推進しており、この地域においては「昇龍道プロジェクト」と銘打って取り組まれているところです。その結果、平成27年の外国人延べ宿泊者数は前年に比べ55.7%の高い伸びを示し、93万人を記録しました。

観光入込客数（延べ人数）・観光消費額の推移

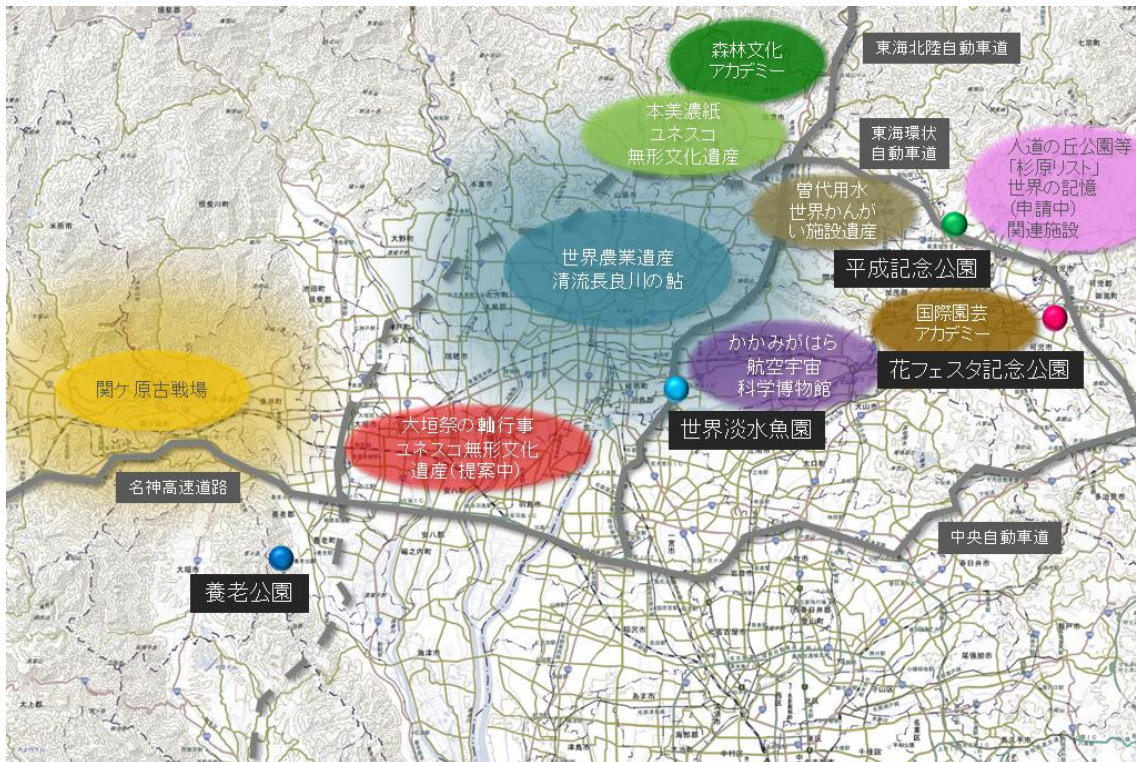


3. 広域交通ネットワークの進展

本県は、わが国の東西軸と南北軸の結節点に位置し、今後さらに東海環状自動車道西回り区間、リニア中央新幹線（2027年東京・名古屋間開業予定）の整備により、ヒト、モノ、カネ、情報が行き交う「スーパー・メガリージョン」（三大都市圏の一体化）が形成されるなど、広域交通ネットワークが飛躍的に進展していくことが期待されます。

4. 公園を取り巻く地域資源

本県の県営都市公園は各流域のいわば要の位置に立地し、公園の周辺には清流長良川の鮎、本美濃紙などの「世界遺産」をはじめ、関ヶ原古戦場、かかみがはら航空宇宙科学博物館などの本県が誇る数多くの地域資源があります。そして、これらのさらなる魅力向上を図るため、「清流の国ぎふ」ブランドづくりが展開されているところです。



「電子国土webデータ」（国土地理院）（<http://maps.gsi.go.jp/#9/35.779943/137.040710/>） 画像もとに岐阜県作成